

## 平成17年の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴について

平成17年の梅雨時期を平年と比較すると、梅雨入りは南西諸島を除いて遅く、明けは地域により異なっていた。梅雨時期の降水量は、南西諸島で平年よりかなり多かったが、九州南部から東海にかけては平年より少なかった。

気象庁が梅雨時期に行う梅雨の入り・明けの発表は、当日までの天候経過と向こう1週間程度の天候の予想に基づくものです。気象庁では、毎年、梅雨時期の終了後に、実際の天候経過に基づいて事後検討を行い、各地の梅雨時期の確定及び特徴のまとめを行っています。今般、平成17年の梅雨についてとりまとめた結果は以下のとおりです。

### 1. 梅雨入り及び梅雨明けの事後検討

各地方ごとに、地方全体としての季節の推移を精査した結果、おおむね当初発表どおりの時期で確定し、一部の地方について入り・明けの遷移期間（5日程度）の中で微調整を行った。なお、北陸地方については、梅雨明けを当初発表より5日早い7月18日ごろとした（別表参照）。

### 2. 梅雨時期の特徴

#### （1）梅雨入り

南西諸島を除いて平年より遅い梅雨入りとなり、特に、九州南部、北陸、東北北部では平年に比べ2週間程度遅れた。南西諸島では平年より早い梅雨入りとなった。

#### （2）梅雨明け

沖縄と東北では遅い梅雨明けとなり、東北では平年に比べて10日前後遅かった。そのほかは、平年並か早い梅雨明けとなった。

#### （3）梅雨前線

梅雨前線は、6月は南西諸島から日本の南海上に位置することが多かったが、27日ごろからは北陸や東北南部まで北上して活発となった。7月に入り、梅雨前線は本州上に停滞することが多くなり活動も活発であった。

#### （4）降水量

梅雨時期の降水量は、九州南部から東海にかけては、平年より少なかった。これらの地方では、特に6月は梅雨前線の影響を受けることが少なく、記録的な少雨となったところが多かった。一方、南西諸島では、6月は活発な梅雨前線の影響を受けたことにより、梅雨時期の降水量はかなり多かった。

## 平成 1 7 年 梅 雨 入 り ・ 明 け ( 事 後 検 討 結 果 )

地 域 名	梅雨入りと階級(*1)			梅雨明けと階級(*1)			梅雨時期の降水量 平年比と階級(*2)
	事後検討	当初発表	平 年	事後検討	当初発表	平 年	
沖 縄	5月 2日ごろ (-)	5月 2日ごろ	5月 8日ごろ	6月27日ごろ (+)	6月27日ごろ	6月23日ごろ	171% (+)*
奄 美	5月 5日ごろ (-)	5月 9日ごろ	5月10日ごろ	6月27日ごろ (0)	6月27日ごろ	6月28日ごろ	181% (+)*
九州南部	6月11日ごろ (+)*	6月11日ごろ	5月29日ごろ	7月15日ごろ (0)	7月15日ごろ	7月13日ごろ	78% (-)
九州北部	6月10日ごろ (+)	6月10日ごろ	6月 5日ごろ	7月17日ごろ (0)	7月17日ごろ	7月18日ごろ	70% (-)
四 国	6月11日ごろ (+)*	6月11日ごろ	6月 4日ごろ	7月16日ごろ (0)	7月16日ごろ	7月17日ごろ	75% (-)
中 国	6月11日ごろ (+)	6月11日ごろ	6月 6日ごろ	7月18日ごろ (0)	7月18日ごろ	7月20日ごろ	87% (0)
近 畿	6月11日ごろ (+)	6月11日ごろ	6月 6日ごろ	7月18日ごろ (0)	7月18日ごろ	7月19日ごろ	75% (-)
東 海	6月11日ごろ (+)	6月11日ごろ	6月 8日ごろ	7月18日ごろ (-)	7月18日ごろ	7月20日ごろ	80% (-)
関東甲信	6月10日ごろ (+)	6月10日ごろ	6月 8日ごろ	7月18日ごろ (-)	7月18日ごろ	7月20日ごろ	111% (+)
北 陸	6月27日ごろ (+)*	6月27日ごろ	6月10日ごろ	7月18日ごろ (-)	7月23日ごろ	7月22日ごろ	109% (0)
東北南部	6月15日ごろ (+)	6月15日ごろ	6月10日ごろ	8月 4日ごろ (+)*	8月 3日ごろ	7月23日ごろ	93% (0)
東北北部	6月25日ごろ (+)*	6月27日ごろ	6月12日ごろ	8月 4日ごろ (+)	8月 4日ごろ	7月27日ごろ	105% (0)

(\*1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「\*\*日ごろ」と表現した。

記号の意味は、(+)\*：かなり遅い、(+): 遅い、(0): 平年並、(-): 早い、(-)\*：かなり早い、の階級区分を表す。

(\*2) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美地方は5~6月)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)\*：かなり多い、(+): 多い、(0): 平年並、(-): 少ない、(-)\*：かなり少ない、の階級区分を表す。

注：階級区分について

1971~2000年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%		33%	33%	
	10%	23%		23%	10%
梅雨入り・明け	かなり遅い	遅い	平年並	早い	かなり早い
降水量	かなり多い	多い	平年並	少ない	かなり少ない

代表地点における梅雨期間の降水量（参考）

地域名	代表地点	梅雨期間降水量（同期間の平年値合計）
沖縄	那覇	1033.5mm (424.2mm)
奄美	名瀬	1134.5mm (602.0mm)
九州南部	鹿児島	293.0mm (483.3mm)
九州北部	福岡	291.0mm (388.0mm)
四国	高松	215.0mm (206.6mm)
中国	広島	457.5mm (361.9mm)
近畿	大阪	238.0mm (271.4mm)
東海	名古屋	180.5mm (295.5mm)
関東甲信	東京	286.0mm (239.9mm)
北陸	新潟	211.5mm (145.1mm)
東北南部	仙台	297.0mm (267.7mm)
東北北部	青森	146.5mm (131.6mm)

参考として、各地域の代表的な地点の入りの遷移期間のおおむね中日から明けの遷移期間のおおむね中日の前日までの降水量の合計値を示した。括弧内には、同期間の日別平滑平年値の合計値を示した。

平成17年 各地域の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴

沖 縄

梅雨入りは早く、梅雨明けは遅かった。降水量は後半かなり多かった。日照時間は少なく、後半かなり少なかった。

奄 美

梅雨入りは早かった。降水量は後半かなり多かった。日照時間は少なかった。

九州南部

梅雨入りはかなり遅かった。気温は高く、前半かなり高かった。

九州北部

梅雨入りは遅かった。降水量は前半かなり少なく、後半多かった。気温は高く、前半かなり高かった。

四 国

梅雨入りはかなり遅かった。降水量は前半かなり少なく、後半多かった。気温は前半かなり高かった。

中 国

梅雨入りは遅かった。降水量は前半かなり少なく、後半多かった。気温は前半かなり高かった。

近 畿

梅雨入りは遅かった。降水量は前半かなり少なかった。気温は前半かなり高かった。

東 海

梅雨入りは遅く、梅雨明けは早かった。降水量は前半かなり少なかった。気温は前半かなり高かった。

関東甲信

梅雨入りは遅く、梅雨明けは早かった。

北 陸

梅雨入りはかなり遅く、梅雨明けは早かった。気温は前半かなり高かった。

東北南部

梅雨入りは遅く、梅雨明けはかなり遅かった。降水量は前半かなり少なかった。気温は前半かなり高く、後半低かった。

東北北部

梅雨入りはかなり遅く、梅雨明けは遅かった。

(注) 前半は6月、後半は7月(沖縄と奄美地方はそれぞれ5月、6月)の地域平均値による。